



<ラムサール通信>

2018年11月19日発行 第193号

●第103回<ワイズユース>ワークショップ(12月16日)のお知らせ●
ラムサール条約COP13(ドバイ) 報告会&忘年会

2018年10月21日からアラブ首長国連邦(UAE)のドバイで開催されたラムサール条約第13回締約国会議(COP13)は、27の決議を採択して29日、閉幕しました。日本の志津川湾(宮城県)、葛西海浜公園(東京都)が新規登録されました。ラムサールセンター(RCJ)からは岩崎慎平(会長)、小山文大(副会長)、中村玲子(事務局長)、鈴木詩衣菜、佐々木優、安部彩野、Sansanee Choowaewさんが参加しました。日本国際湿地保全連合(WIJ)、日本湿地学会と協力してAWS2017(佐賀)の成果を報告するサイドイベントや、RCJの活動紹介の展示ブースを通じて、各国代表やNGOとの情報交換に努めました。KODOMOラムサール活動の参加者が結成したNGO「ユースラムサールジャパン(YRJ)」からも代表の佐藤琢磨さんら3人が参加し、オーストラリア、UAE、サモアなどのユース主催のサイドイベント「ユース・フォーラム」の中心メンバーとして、閉会式で「ユース・ステートメント」を発表するなど活躍しました。このCOP13の報告会を12月16日(日)に開催します。



展示ブースで参加者と交流する小山副会長

終了後は、忘年会です。ワークショップだけ、忘年会だけの参加も歓迎です。

第103回<ワイズユース>ワークショップ「COP13 報告会」

- 日時：2018年12月16日(日) 午後1時30分～4時30分
- 場所：目黒区田道住区会議室 三田分室 第1会議室
目黒区目黒三田2丁目10番33号 電話：03-3791-7901 JR・東急目黒線目黒駅から徒歩7分
www.city.meguro.tokyo.jp/shisetsu/shisetsu/juku_center/mita.html
- プログラム(予定)：
 1. COP13 報告：
 - 全体報告： 岩崎慎平・中村玲子 / 採択された決議： 鈴木詩衣菜
 - YRJ 報告： 佐藤琢磨・田辺篤志 / AWS2017 サイドイベント： 名執芳博
 - スライドショー<COP13 とドバイ>： 佐々木優 / 参加者の感想： 小山文大ほか
 2. 討論： COP14に向けて、RCJの今後の方針をめぐって

..... 2018年 忘年会

2018年12月16日午後5時～7時 「トラットリアイタリア目黒店」

JR 目黒駅西口から徒歩5分 / 電話：050-5289-9401

アクセスマップ：http://www.trattoria-italia.com/shop_map/map_meguro.html

参加費： おとな4000円+α、学生2000円

※忘年会に参加される方は、できるだけまえもって電話・ファクス・メールでRCJまでご連絡ください。

●「KODOMO ラムサール in 南三陸町」の参加者募集中です●

COP13 で新しく登録された宮城県南三陸町の「志津川湾」で開催される「KODOMO ラムサール in 南三陸町」(2019 年 2 月 9～11 日)の参加者募集がはじまりました。全国のラムサール条約登録湿地で活動している子ども(小学 4～6 年生)、約 30 人を募集しています。締め切りは 12 月 7 日。募集案内など詳しくは南三陸町のホームページを。<https://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/index.cfm/11,0,111,392,html>

●「KODOMO ラムサール湿地交流 in 荒尾干潟」は、楽しく終了しました●

2018 年 9 月 23～24 日、熊本県荒尾市で開催された「KODOMO ラムサール湿地交流 in 荒尾干潟」(主催 WIJ、荒尾干潟保全・賢明利活用協議会、協力 RCJ)には、荒尾干潟ジュニアレンジャーの 8 人をはじめ、東よか干潟(佐賀市)、肥前鹿島干潟(鹿島市)、くじゅう坊ガツル・タデワラ湿原(九重町)、屋久島永田浜(屋久島市)で活動する小学生 25 人が参加しました。

中村大輔先生(滋賀県渋川小学校)のファシリテートで、荒尾干潟をフィールド探検し、宝を決める KODOMO 会議をおこない、6 つの宝とメッセージを決め、ポスターを完成させました。子どもたちが選んだ宝は「マジックつり、歩ける干潟、漁師、人と生き者の共生、干潟の自然のフィルターで水をきれいに、貝がらの砂浜」で、メッセージは「ひろーかひろーか砂干潟ばい 荒尾干潟に来てみんなしゃい」でした。RCJ からは岩崎慎平、中村玲子、田辺篤志、佐々木優さんが参加しました。

●ミャンマー・ウトゥ村のマングローブ植林地再訪●

2018 年 9 月 18～22 日、2017 年から 2 年計画で実施している「ミャンマー国ウトゥ村での住民参加の持続可能なマングローブ生活林づくり」(トヨタ環境活動プログラム)の現地プログラムを実施しました。

ウトゥ村はミャンマー国イラワジ管区に位置し、ベンガル湾に流れ込むウトゥ川河口域にある漁村で、RCJ のもうひとつの海外活動「インド洋ベンガル湾岸諸国の湿地協力国際ネットワークの構築」(経団連自然保護基金)の重要な対象地域でもあります。現地パートナーのミャンマー森林協会(MFA)の協力で、現地では村人たちの手でおおよそ 200ha のマングローブ植林がおこなわれ、自主的な保護区を設定するなど、この 1 年半で大きな成果があがっています。岩崎慎平、林聡彦、亀山保、中村玲子、佐藤湧馬、Bishnu Bhandari、Sansanee Choowaew さんが参加し、泥だらけになりながら活動してきました。

マングローブを植える岩崎会長 →



●クラブバンクとエコツーリズム研修プログラム(タイ・ラノー)●

ベンガル湾岸湿地ネットワークづくり(KNCF 事業)の一環で、NGO の若手スタッフのキャパシティビルディングとして、コミュニティによるクラブバンク(「カニ」保全活動)とエコツーリズムの事例を見学する研修プログラムを、マヒドン大学環境・自然資源学部の協力で、タイのラノー地域で、2018 年 11 月 5～9 日に実施しました。インドの NGO、Pallishree から 3 人、バングラデシュの Bangladesh POUSH から 3 人、ミャンマーの BANCA から 2 人が参加しました。詳細は次号でお伝えします。